



THE SERVICE CLUB OF YMCA
THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

2023年1月

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
〒064-0811
011(561)5217

札幌クラブ

BF・JEF (Brotherhood Fund・Japan East Fund)

— 主題 —

国際会長
アジア会長
東日本区理事
北海道部部长
札幌クラブ会長

「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」
「新しい時代とともに、エレガントに変化を」
「未来に向けていますぐ行動しよう」
「出来ることから今すぐ行動しよう！」
「Sustainable Y~中学生、高校生、ユースとともに~」

Samuel Chako(インド)
Chen Ming Chen(台湾)
佐藤 重良 (甲府21)
小谷 和雄 (札幌北)
伏木 康 (札幌)

札幌クラブ役員

会長 伏木 康
副会長 中田 靖泰
書記 小野 健
会計 秋葉 聡志
直前会長 柴田 伸俊

今月の聖句

求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。 マタイによる福音書5章42節 (宮崎善昭選)

巻頭言 「ほうれんそう」か、それとも「おひたし」か? 副会長 中田 靖泰



職場の能率を向上させるには「ほう・れん・そう(報告・連絡・相談)」が大事とされていることは知っていました。それに対して上司の心構えとして今「お・ひ・た・し」が話題になっていると聞きました。

「お・ひ・た・し」の内容は以下の頭文字です。

- 「お」：怒らない、
- 「ひ」：否定しない
- 「た」：助ける(困り事あれば)、
- 「し」：指示する、 だそうです。

【お(怒らない)】 感情に身を任せて、怒鳴るのは上司としては最低です。しかし、相手のためを思って注意する「しかる」ことは必要でしょう。

【ひ(否定しない)】 上司が部下の意見を否定する場面は必ずあります。しかし、そのような場合でも、いきなり全否定するのではなく、まずは相手の意見や言葉を受け入れ、それから自分の意見を伝える(イエス・バット法)が大事です。それによって部下は「否定された。自分は駄目だ」と落ち込まずやる気を持って成長していくことが出来ます。

【た(助ける)】 部下を助けるのは上司として当たり前ことですが、助け方によっては部下の成長を妨げてしまいます。部下が悩んだり困ったりしている時は、いきなり助けるのではなく、まずサポートを試みましょう。その結果を見て、本当に助けることが必要か考えましょう。「サポート」と「助か」は違います。部下が「自分で解決した」と思わせる「サポート」が本当の「助け」でしょう。

【し(指示する)】 政界ではなにか不都合なことが起こると「秘書が・・・」と責任逃れをすることがあります。上司の指示がなければなにも出来ないという「指示待ち」の組織は最悪ですが、指示するときは、あいまいな指示ではなく「責任は自分がとる」という明確な指示でなければ組織は機能しません。

「ほうれんそう」も「おひたし」もう古い。今は「かくれんぼう(確連報)」の時代だ。いや「ソラ・アメ・カサ」だ、なんて声も聞きます。

ここまで来るともう私にはついていけません。PDCA サイクル一つだけで済んでいた時代が懐かしくなります。

今年も卒業、就職の3月、4月が近づいてきました。社会へ旅立つ青年たちにどんな言葉を贈ろうか迷っている今日この頃です。古い「石の上にも3年」か、それとも「ブラック企業からは軽やかに転身なのか?」

2022年12月例会 出席報告
在籍会員 9名 イベント出席 9名 メネット 3名 メーキングアップ 0名
ゲスト 0名 出席者合計 9名 (内リモート 1名) 出席率 100%

札幌・札幌北クラブ 2023年1月合同例会（懇親会）

日時：2023年1月17日（火）18:30～20:30

会場：アサヒビール園 はまなす館3階

札幌市白石区南郷通4丁目1-1 ☎050-5487-2222

（地下鉄東西線 南郷7丁目下車）

内容：懇親会 ホスト：札幌北クラブ

会費：5,000円

プログラム

司会 小谷 和雄

- ① 開会点鐘 省略
- ② ワイズソング、ワイズの信条 省略
- ③ 今月の聖句 & なぜこの聖句を 省略
- ④ 開会あいさつ 会長 小谷 和雄
- ⑤ 誕生日 札幌クラブ 伏木恵美子 1月5日
札幌北クラブ 佐藤 貴子 1月20日



- ⑥ 結婚記念日 両クラブともなし



- ⑧ 諸報告
- ⑨ YMCA報告 担当主事 北川 佳治
- ⑩ 札幌クラブ報告 札幌会長 伏木 康
札幌北クラブ報告 北会長 小谷 和雄
- ⑫ 閉会挨拶 札幌クラブ会長 伏木 康

なぜこの聖句を！ 宮崎 善昭

様々な場面で他者から求められる時、面倒くさいと感じたり、損するのではと思うこともあります。積極的に関わることで平和を実現することにつながると思います。

2月例会 予告

1. ピンクシャツを着ましょう！！

2月22日は「**ピンクシャツデー**」です。シャツがなければネクタイでもスカーフでも何かピンクを身につけて「いじめ反対」の意思表示をして下さい。

YMCA ではこの日のためにピンクのシャツを作成致しました。宜しければご購入下さい。

2007年、カナダの高校で男子生徒がピンクのシャツを着ていたために「ホモ・セクシャルだ」といじめられました。2人の友人がピンクのシャツを50枚購入して配布して着用を呼び掛けました。全校はたちまちピンクに染まり、いじめはなくなりました。この運動は世界中に広がっています。2012年国連は5月4日を「いじめ反対の日」と宣言しました。

日本は**2月の最終水曜日**を「ピンクシャツデー」としています。

2. 2月の卓話

「ユダヤ人と北海道を救った恩人 樋口季一郎中将」(仮題)

あのファシズムの時代、ユダヤ人だという理由だけでアウシュビッツへ送られ殺された時代に、ナチの命令に敢然と逆らい、満州で多くのユダヤ人の命を救い人道主義を貫いた日本軍人がいました。その人の名は樋口季一郎です。彼の名はシンドラーや杉原千畝と違い、ほとんど世に知られていません。彼はまた終戦の時には、停戦を守らず進攻してくるロシア軍を食い止め、今我々が住む北海道を救ってくれた人でもありました。篠田江里子さんは東京生まれですが、樋口季一郎中将のお孫さんで今、札幌市で市議員をしています。亡くなられたご夫君は札幌南高出身で伏木会長、中田会員と同窓です。そのご縁で、お招きすることが出来ました。お話を伺いしてその働きを後世に語り継ぎたいと思います。

樋口中将は満州国ハルビン特務機関長だった1938年3月、迫害を逃れ、ソ連を通過してソ連・満州国境で立ち往生していたユダヤ人難民に食料や燃料を配給し助けました。しかし、満州国外交部は日本とドイツの意向を忖度し、彼らの通過を認めません。樋口は「日本はドイツの属国でもなく、満州国もまた日本の属国ではない」と日本政府と軍部を説き伏せ、通過を認めさせました。杉原千畝が命のビザを発給し、6000人のユダヤ人を救う2年前のことです。

ユダヤ民族に貢献した人を記し永久保存している「ユダヤ民族基金」では、樋口が救出した総数は**2万人**としています。

12月例会（望年会） ★★★ 札幌クラブ会長 伏木 康

12月20日（火）行啓通浴の居酒屋「鳥魚」で12月例会（望年会）を開催しました。

札幌クラブからは秋葉、宮崎、柴田、北川、伏木の5名、札幌北クラブからは小谷会長、森本夫妻の3名が参加しました。

また、YMCAのユースリーダーを招待することにし、ドレミリーダー、シバリーダー、トラリーダー、YMCAスタッフの木田さんの4名に来てもらいました。

コロナ前からユースとの交流は途絶えており、コロナでYMCAにユースリーダーがいなくなったという情報もありましたが、なんとか大学4年生2人、社会人リーダー1人に来ていただき、交流することができました。また、この度、宮崎メンが日本YMCA同盟から表彰された「50年継続会員賞」を秋葉総主事より贈呈され、参加ワイズ皆でお祝いしました。

写真下。 秋葉総主事から「50年維持会員賞」授与！
左から、柴田、宮崎、小谷、秋葉、
森本、森本夫人、伏木



写真上： 水産王国 北海道
目の前に新鮮な北海道の海の幸。
ニシン、たら、かれい、ひらめ、いか
さんま、うに、きんぎ。えび、・・・
より取りみどりでです。

今回の会場は貸切ではなく、他のお客様もいましたので、ワイズソング等の例会ルーティーンは省略し、参加者が来年の抱負等を発表し、午後7時に始まった例会は午後9時半頃にお開きになりました。

苦しかったこと、失敗したことなどはみな忘れ、うさぎ年への希望を抱くことの出来る楽しい会でした。



写真左上： 宮崎会員と小谷北海道部長。

写真右上： 左から北川、宮崎、伏木、秋葉

写真左下： ユースと懇談。

左から、ドレミ、木田、トラ、
シバ、柴田

（右上と左下の写真は小谷部長の提供です）



YMCA ニュース 担当主事 北川 佳治

明けまして

めでとうございます。

昨年中は、皆様のおかげで YMCA としましても、大変アクティブな年に出ることが出来、心より感謝申し上げます。

今年も様々に変化のある年になりそうですが、引き続き宜しくお願い致します。

担当主事 北川 佳治



牛乳を飲んで北海道を助けてください！

年の暮れも押し迫った 12 月 27 日、帯広からの一通のメールが東日本区を揺るがしました。十勝クラブの山下ワイズのメールを下にご紹介致します。

牛乳を飲んで北海道を助けてください！

ウクライナの戦争に端を発したあらゆる資材の高騰とコロナや物価高を背景に、特に牛の餌は過去にない高騰となり確保も厳しい状況です。コロナ禍による牛乳のだぶつきは北海道に一局的にしわ寄せが掛かり、既に北海道の牛乳工場の加工ラインは 24 時間フル操業で、バターは過去最高の在庫に膨れ上がり、限界に達しつつあります。このような中で酪農をやめるといふ北海道の酪農家は今年度 200 戸を超えることになりそうです。過去に引き取られない牛乳を破棄する現場に立ち会い、酪農家の皆さんが涙を流している場面に出くわした事があります。

助けてください。心からお願いします。(抜粋)

年末多忙にも関わらず、早速小原ワイズ(タンポポ)、今城ワイズ(横浜つづき)、大久保ワイズ(宇都宮)、山本ワイズ(甲府 21)、仙洞田ワイズ(甲府やまなみ)、長谷川ワイズ(東京八王子)その他多くの方々から、心温まる賛同、激励、提言等々を頂き、感激致しました。

我々札幌クラブは同じ北海道で生活しながら、事態がそれほど深刻だとは思ってもみませんでした。

認識を改め「先ず隗より始めよ!。日常生活、折々の贈答にも「乳製品優先」を徹底しましょう。

新型コロナウイルスから 4 回目の冬を迎えて

今シーズンで、2020 年 1 月に国内で初の新型コロナウイルス感染者が出て以来、4 回目の冬を迎えています。北海道では、スキープログラムやスケートプログラム等のウィンタープログラムが隆盛を見せる時期です。

特に、子ども達の体験活動にとっては貴重な季節であります。コロナ禍以前と比較し、大幅にその機会が減少しました。それでも、札幌 YMCA としては、自治体の各種対策の励行順守はもちろんのこと、日本 YMCA 同盟が示すガイドラインにも則り、種々対策を講じて、少ないながらも、その機会の確保に努めてきました。

今回のウィンタープログラムでは、館内プログラム 600 名程、スキー 300 名程、総勢 900 名を超える子ども達が YMCA プログラムに参加しています。現在でも、スキーの減少傾向は続いておりますが、その他のプログラムは回復の兆しが見られています。

様々な体験活動を通して、新しいお友達ができたり、学びを得たり、楽しい思い出を作ったり、とそれぞれが貴重な経験の場が従来のように戻りつつあります。

2023 年も、YMCA に関わる全てのステークホルダーに、プログラムを通じてウェルネスを提供し、ポジティブネットを拡げられるよう、スタッフ一同邁進してまいります。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のために YMCA に尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかる
4. 義務を果たしてこそ、
権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席第一、
社会には奉仕第一を旨としよう。